

鳥取県青少年育成アドバイザー 協議会通信

鳥取県青少年育成アドバイザー通信 35号
鳥取県青少年育成アドバイザー協議会
発行日 2003. 7. 16
編集 芳村恵子
〒680-0002 鳥取市浜坂東 1-10-15

「平成15年度中国・四国ブロック
青少年育成アドバイザー連合会総会」
に出席して

高橋 譲

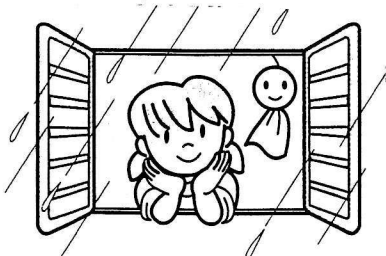
期日 平成15年6月7日(土)
場所 香川県善通寺市総合会館

初夏の風薫る晴天の日に、弘法大師の誕生地の善通寺市において開催されました。来賓に、香川県企画部から青少年課長さんと企画員(学校関係)さんをお迎えして、例年と同様に事業収支について協議されました。また研究集会は、本年度徳島で、来年度島根で、そして次は香川で開催されます。

総会終了後、香川県青少年育成アドバイザー協議会設立10周年記念講演を、中国・四国のアドバイザーも一緒に拝聴しました。

演題は「現代若者考」、講師は神戸大学医学部解剖学講座教授の三木明德先生でした。医学の立場から見た戦後の若者についての視点には、興味ある内容が含まれていたように思います。

実は三木先生は、善通寺市在住の青少年育成アドバイザーである久利和子さんの弟さんで、香川県アドバイザー会の10周年記念の講演をボランティアで頼まれたそうで、姉に「資金がないから」と言われて勉強して来ましたと笑っていらっしやいました。ちなみに、久利さんのご主人も分野は違いますが、東大出身の事業家だそうです。



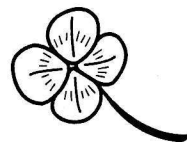
6月7日は朝9時に善通寺市に行き、午前中「第10回記念香川県青少年育成アドバイザー協議会総会」に来賓として出席し、午後の「中国・四国アドバイザー連合会総会」に臨みました。また、昼食をはさんで各県会長さんと情報交換をし、大変有意義な一日でした。

「平成15年度全日本青少年育成アドバイザー
連合会総会・会長研修会」に出席して

高橋 譲

期日 平成15年6月14日(土)
場所 国立青少年総合センター

小雨に煙る代々木で、37加入都道府県から39名の会長・役員が出席して開催されました。中国・四国からは、鳥取・島根・広島・山口・徳島(高知は未加入)の5県各1名の出席でした。



来賓に国民会議上村文三副会長と笠井浩幸事務局をお迎えして、和やかな雰囲気の中で議事が進められました。議事の始めに、宮城県会長佐々木君雄さんが、アドバイザーへの思いを美しい音色で語られ、参加者の思いが一つに高まり、純真な青少年育成への取り組みの絆を、あらためて確かめ合うことができました。総会の最後には、沖縄県会長宮良祐成さんの、これもまた感動あふれる詩を披露されて心が熱くなりました。

総会終了後、会長研修会が同会場で行われました。大久保浩之九州・沖縄ブロック会長(佐賀県会長)を進行役に、助言を国民会議上村・笠井両氏にお願いし、「アドバイザーの組織をどう活性化するか」について、各県の状況が真剣に話し合われました。

また、国民会議から各県民会議に示された「指導者養成のあり方」についても、上村副会長・湊事務局長から詳しく説明を受けました。

そして、静岡県アドバイザー情報誌「さざなみ」が紹介され、8頁という立派さに大変驚き、静岡県会長さんの話を聞いて、活動内容の素晴らしさにまたびっくりしました。

途中から、通信教育のチューターの一人である柿本勇先生も飛び入りで参加され、充実した会長研修会になりました。

揺れ動く子どもたちから学ぶ

新川裕二

「カッチ、カッチ、カッチ」

丸い振り子が右に左に揺れている柱時計。

小さい頃、古ぼけたぜんまい仕掛けの時計がすすけた柱に取り付けられ、時を刻んでいた。時計盤の下に丸い振り子が行ったり来たりしているのを、じっと眺めていたそんな子ども時代があったような気がする。

さて、小学校の子どもたちと接しながら、子どもたちは揺れながら生きているということに気づく。

毎日のことでは、朝元気よく「おはようございます」と挨拶の出来る日があれば、じっと下を見ながら、とんぼりとんぼりと歩いて来る時もある。そして、友達との関係で、正義感強く指摘する場面があれば、友達と一緒にになっていじめに加わってしまうそんな場面もある。

天気にも、晴れの日があれば雨の日もあるように、子どもたちにも良い時と悪い時がある。さらに、思春期になるとますます自分探しに向けて、自分ではどうしようもない中で動いている自分があることもある。

この揺れの原因は、発達段階のもの、友達や周囲の大人との関係のもの、そして最も多くの時間を過ごしている家庭のものなど、子ども一人一人違っている。



揺れ動く子どもたちと出会った時、マイナスの言動に対して、きちんとより良い方向を指し示してやるのが大切だろう。その形は、叱ることであったり、話を聴いてやることであったりする。プラスの言動に対しては、きちんと評価してやることも必要だろう。

そして、何よりも大切なことは、どんな子どもも「見捨てない」、言い換えれば「愛」を持って、子どもが一人前の大人になるのを手助けするために関わっていくということである。(溺愛ではなく)

子どもたちの揺れは、自立に向けての大きなステップであると考え、広い視野で関っていくことが大切だと思う。

子どもたちに「生きるって素晴らしい」「人間っていいな」「あんな大人になりたい」、そんな夢や展望の開ける社会を示してやれるのが、私たち大人の役割ではないだろうか。

アドバイザーの皆さんの地道な取り組みとチーム一丸となった取り組みが、昨年の中・四国大会を成功させたと思う。これからも、力を合わせて鳥取の子どもたちを、優しさとたくましさを併せ持つ夢を持った子どもにしていきたいものだ。



<お知らせ>

*「平成15年度鳥取県青少年育成
アドバイザー協議会総会」

日時 平成15年8月3日(日) 16時～
会場 浜村温泉「丸福」

皆様とお会いして、今年度の活動について語り合うのを楽しみにしています。

*「平成15年度青少年育成活動推進協議会」

日時 平成15年9月4日(木) 10時～
会場 県立倉吉未来中心

鳥取県青少年育成アドバイザー協議会より、藤井久美・芳村恵子が実践発表をさせて頂くことになりました。どうか応援を宜しく願います。

編集後記

つい最近までみずみずしく咲いていた紫陽花が色褪せてしまいました。それと同時にサルスベリのかわいいピンク色が一段と濃くなって、あの暑い暑い夏の到来を感じるようになりました。

それにしても、この頃中学生にまつわる悲しいニュースが続いています。心身共にエネルギーを補充して、また1年青少年育成のために頑張りましょう。